

月華

平成30年4月21日
京都市上京区寺町通清和院口上ル
二丁目北之辺町395 20
社会福祉法人 浄山会
TEL 075(223)1165
FAX 075(223)1166
URL <http://jozankai.jp/>
発行人 稲岡正純
編集人 広報委員会

第52号



ご挨拶 施設長 稲岡正純



春風を頬に感じ心華やぐ頃になりました。皆様いかがお過ごしですか。平素より浄山会つきかげ苑の運営に対し格別のご支援を賜わり心より厚く御礼申し上げます。今冬はことのほか厳しい寒さにもかかわらず、当苑に於きましては皆様のご協力のお蔭をもちまして、インフルエンザの患者も発生せずに無事に乗り切ることができました。

ご承知の通り、昨年の社会福祉法人の改革や、今年の四月に迎える医療・介護報酬の同時改定により、社会福祉業界を取り巻く環境は変動の連続です。今回の改正の大きな四つのポイントとしては①地域包括ケアシステムの推進、②自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現、③多様な人材の確保と生産性の向上、④介護サービスの適正化・重度化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保が挙げられています。この変化の時代だからこそ、御入居者の皆様、並びに職員を守る為にも安定した経営と適切な運営に取り組まなければなりません。

つきかげ苑は平成十六年八月に「社会に慈しみと共生（ともいき）思想の精神」を理念に掲げて開所以来、今年で十五年目に入ります。建物や設備の老朽化等により、整備を必要とすることが増えています。その上、労働人口の減少により多業種にわたり人材不足が発生している中、福祉の人材不足も極めて深刻な状況となっております。施設運営における最大の課題は人材の確保・育成・定着であり、長時間労働の是正やサービス向上を目的として「働き方改革」が問われております。サービスの質と職員の働き方とのバランスをとり、持続可能性のある施設運営に努めてまいりたいと思います。

高齢者福祉の先駆けとして施設サービスを担い、様々な福祉需要にきめ細かく対応しながら地域社会との連携を保ち、その役割を果たさなければなりません。今後とも皆様方のご理解並びに厚いご支援を賜わりますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

お看取りを終えて

看取り介護とは人生の終末期において延命を行わず、寿命をまっとうされるまでそばに寄り添い、最期の瞬間まで生きる援助をさせていただく事です。

寒い日々が続く二月、十年間共に過ごしたTさんが旅立たれました。Tさんは昨年夏頃より全般的な心身の機能低下が見られ、秋より看取り介護が始まりました。看取り介護が始まってからも私達の行う事は大きく変わりません。食事や入浴、排泄等、あたりまえのことである生活援助です。ただ大きく変わる点はTさんの安楽こそが最優先である、という事です。それは弱っていくTさんを私達が見守り、受け入れ、認めるという事です。十分理解しているつもりでも、それは大変辛い事でした。元気であってほしいという気持ちと、必要以上の援助が本人の苦痛になってしまおうという相反する感情が交錯して、介護職員として何ができるのだろうか、と葛藤の日々が続きました。多くのご家族・ご親戚が毎日のように来苑してください、Tさんはたいへん嬉しそうな表情で迎えておられました。その光景を見て私も喜びを感じる事ができました。息をひきとるまで最期は人それぞれです。Tさんは長時間家族と過ごされた後、静かに亡くなりました。悲しみ・後悔・ねぎらい・そして感謝、いろんな気持ちを押しかけてきました。今も整理ができていないのかもしれませんが。

ご家族の希望にて、本苑多目的ホールにてお通夜・告別式をとり行いました。Tさんと交流のあった入居者さん、仕事にて普段は弔問できない職員も参列させていただき大勢にてお見送りさせていただくことができ嬉しく思います。

終末期に介護職員ができる事はそう多くないのかもしれませんが、本人・家族・そして職員にとっても悔いなくお看取りさせていただくという事に関しては専門職としてもっとできることがあるはずだと思います。人生の最期に至るまでの生きた事実をもっともっと大切にしていけるよう努力していきたいです。

（介護職員 藤まゆみ）

より良い介護の実践

1 個人に寄り添うケア

入居者の個性と尊厳を大切に各専門職が個人を捉え、その人らしい生活ができるよう連携を図り信頼関係の構築を目指す。

2 人権を尊重したケアプランの作成

要介護高齢者に対して、自立支援を押し付けるのではなく、やる気を引き出し、生活の質の向上を主軸に考え、人権にも十分に配慮し尊厳を持った生活を送っていただくよう、身体、精神、社会面全般から包括的にケアプランを立案、施行していく。

3 協働ケアと医行為の充実

- (1) 家族・地域社会・協力病院・他職種と綿密に連携し、入居者の生活状況を把握するための協働ケアの充実を図る。
- (2) 日々の生活援助（生活リハビリ含む）において、他職種とのより良い協働に努める。
- (3) より安全で苦痛のない医行為を提供できるよう、他職種間で情報を共有し、各職種の役割に適した指導を行う。

4 医療的ケアの実施

医療的ケアに関する研修に積極的に参加し、その情報共有を実施する。また、医療的ケアに沿った指導を行い、ケアの質の向上を図る。

5 予防医療と衛生管理の充実

- (1) 入居者の健康管理において、心身共に苦痛なく穏やかな生活を継続していただくために、医師の定期診療による予防医療を実施する。
- (2) 地域社会における感染症や食中毒等の動向を収集し、施設での予防対策を実施する。
- (3) 感染症や食中毒の予防対策を習得し、衛生管理と異常事態への早急な対応を率先する。また、関連委員会を中心として外部研修に積極的に参加し、施設でのフィードバックを行い、予防対策意識の向上を図る。

看取り介護の充実

1 穏やかで尊厳のある看取り介護

- (1) 穏やかで尊厳のある生活の延長として個人の生前意思を尊重した終末期を迎えられるよう、各専門職が連携・協働を図り、入居者とその家族の意向に寄り添った支援と環境作りに努める。
- (2) 職員一人ひとりが、人が老いて最期を迎えることの見識を広め、寄り添い、尊く充実した支援の実践を目指す。
- (3) 特別養護老人ホームが担う終の棲家としての社会的役割を果たす。

2 看取り介護の支援

- (1) 家族の要望に適した穏やかで尊厳ある看取り介護を支援する。
- (2) 家族へのグリーフケア（悲嘆への寄り添い）を支援する。
- (3) 家族との面談や会議を実施する。
- (4) 医師の指示を中心として、他職種が連携・協働し、看取り介護の充実に努める。

食環境の充実

1 個人に適した食事の提供

- (1) 入居者一人ひとりの咀嚼、嚥下能力を確認し、誤嚥の予防に努める。
- (2) 個人の必要エネルギーを考慮し適正な食事量を提供する。
- (3) 看取り介護において、個人に合った食事内容や提供時間を考慮できるよう各部署と連携を取り対応していく。

地域社会とのつながり

1 地域社会との共生

地域の一員として、地域行事・活動への積極的な参加、施設の取り組みをより地域に理解いただくための広報活動の活性化、より深いアセスメントによる地域ニーズの把握に加え、福祉施設としての専門性を生かした活動を強化する。地域福祉の拠点となり相互関係を構築することにより、社会福祉法人の責務のひとつである地域社会への貢献を果たす。

2 後援会の設立

後援会の設立にて多数のご厚志を仰ぎ、より充実した施設サービスを提供する。

3 ボランティアの活性化

新たに地域のボランティアを積極的に受け入れ、入居者のニーズの多様化に対応し、更なる地域との繋がりを広げる。

施設サービスの向上に向けての取り組み

施設サービスの質の向上、適正化を図ることを目的として下記の事業を実施し、サービスに対する客観的な評価を受ける。

- (1) 満足度調査の実施（ご入居者・ご家族）
- (2) 第三者評価の受診（第三者機関）

人材確保・育成と定着に向けての取り組み

介護職員の人材不足は大きな社会問題であり、当苑においても例外なく人材確保・定着において苦難を強いられている。今後も指導的立場の職員を育成するしくみの構築、従事する職員のキャリアアップ形成、新たに介護の仕事にチャレンジする職員の育成、将来にわたり安心して働き続けられるようワークライフバランスに配慮した労働環境の整備、勤務体系や業務の見直し改善など引き続き取り組んでいく。

収支状況の改善

平成30年度の介護報酬改定で特養においては若干のプラス改定となったが、これまでのマイナス改定の影響が大きく、当苑の運営においては依然として厳しい状況であるため、良好な収支バランスとなるよう主に以下の視点をもって運営にあたる。

- (1) 稼働率目標を95%とし、収入の安定を図る。
- (2) 経営意識を高め、各部署・各業務において効率化を図り、冗費削減に努める。

平成30年度 社会福祉法人 浄山会 年間行事計画

| 月 | 法人 | 施設全体 | 各ユニット |
|-----|----------------|--|--------|
| 4月 | 運営会議 | 入社式 方針説明 新入職員オリエンテーション 職員研修 | 花見 |
| 5月 | 運営会議 第1回理事会 | 職員研修 外出レクリエーション | 母の日 |
| 6月 | 運営会議 定時評議員会 | 前期消防訓練 職員研修 | 父の日 |
| 7月 | 運営会議 | 関係物故者追善法要 介護職員特定業務従事者健康診断 職員研修 | 七夕 |
| 8月 | 運営会議 | 職員研修 | |
| 9月 | 運営会議 | 月華祭・敬老祝賀会 入居者健康診断 地元小学校運動会見学 職員研修 | 敬老会 |
| 10月 | 運営会議 | 職員研修 | 運動会 |
| 11月 | 運営会議 | インフルエンザ予防接種 地元小学校学芸会見学 職員研修 | 紅葉狩り |
| 12月 | 運営会議 | 後期消防訓練 餅つき 職員研修 | クリスマス会 |
| 1月 | 運営会議 | 職員研修 | 書初め |
| 2月 | 運営会議 | 職員健康診断 職員研修 | 節分 |
| 3月 | 運営会議 第2回理事会 | 彼岸法要 職員研修 | ひな祭り |

※随時行事

| | |
|--------------|---|
| 個別外出レクリエーション | ケアプランに基づいて実施（買い物、寺院参拝等） |
| 誕生日会 | 入居者の誕生日に開催 |
| 食事レクリエーション | 各階において開催（隔月） |
| 書道サークル | 月1回開催（第1金曜日） |
| 合唱サークル | 月1回開催（第2金曜日） |
| フラワーアレンジメント | 月1回開催（第3金曜日） |
| ボランティアによる活動 | オカリナ・マンドリン・大正琴・ギター・バンド演奏、体操、手品、車イス点検、和楽、日本舞踊、コーラス、人形劇、和紙切り紙 |
| 出張理美容 | 月1回開催（第4木曜日） |
| 読経(浄土宗日常勤行式) | 週3回開催（月・水・金） |

行 事 の ご 紹 介



節分

二月三日、境内や苑内にはたくさんの鬼が現れ邪気を振るっておりました。入居者さんと一緒に「鬼は外！」と鬼退治にて、無事に邪気を追い払う事ができました。怖い鬼とも最後は笑顔で記念撮影。今年の無病息災を願いました。



花見

春の訪れを知らせてくれる草花の中でも、特に春を感じさせてくれるものといえば、桜です。陽気に包まれながら散歩をする境内はとても気持ちが良く、自然と笑顔がこぼれます。季節を感じながら、穏やかな生活を過ごしていただきたく思います。



今号の

ボランティアさん

Pick UP!



マンドリンレク



毎月第一月曜日に開催しておりますマンドリンレクのご紹介です。少しでも多くの方々に楽しんでいただけたら、と、月毎に各フロアをまわってくださっています。皆で歌える季節の歌や昔懐かしい曲の演奏、芝居やゲームといった余興のサプライズなど、様々な企画を用意して入居者さんを楽しませてくださっています。



新入居者のご紹介



三階はぎユニットにご入居の松尾光子さんはお話しが大好きな方です。塗り絵が得意で皆さんに披露されています。



嵯峨生れの山田絹子さんは息子さん四人を育てられた心優しい方です。三階はぎユニットにご入居されました。



二階ふじユニットにご入居の斉藤美夜子さんは油絵を趣味とされています。社交ダンスもお好きとのこと。

要望受付

平成三十年一月から三月中旬に、ご入居者及びご家族から頂きましたご要望は七件になります。

ご要望の内訳は、「入浴後にベビーオイルを塗ってほしい」「各専門職の意見を聞きたい」「怪我だけは気をつけてほしい」「スポーツが好きなので、テレビでスポーツ番組がある時は、見せてほしい」「面会時に口紅を塗ってやりたいので、就寝時に口紅を落としてほしい」と介助及び職員への対応に関するものが五件。「認知症の母の言動であんこの提供が控えられているが、本当はあんこが大好きなので提供してほしい」と食事に関するものが一件。その他に「質の高い職員を配置してほしい」との希望がありました。

頂戴したご要望は、ケアプランの立案や各種委員会、フロアミーティング等で検討し、ご入居者一人ひとりの生活がより豊かになるように迅速な対応に努めてまいります。

また、一階事務所横の掲示版の下に設置しておりますご意見箱や、各行政機関の要望受付窓口(市・区・国民健康保険団体連合会)及び第三者委員への相談もご利用下さい。

平成三十年度 つきかげ苑 職員目標

【清心事達】 せいしんじたつ

清心事達とは、「心を清らかにすれば事を達成することができる」という意味です。「心が清らかでなければ事を達成することができない」とも解釈できます。

この一年、職員一人ひとりが清らかな心で、事を成し遂げるべく、「清心事達」の気持ちをお忘れぬよう日々取り組んでまいります。



つきかげ苑理念

私たちは、自立支援・自己決定・生活の継続性・個別性を大切にします。

「共生(ともいき)」思想に基づく、利用者本位の明るく、楽しく、やすらぎのある施設づくりに努めます。

編集後記

寒く長い冬から一転、一気に春がやって来しました。ここ近年は暑い夏と寒い冬が長く続き、春と秋は短く、あっといいう間に終わってしまう気がします。地球温暖化の影響もあるそうですが、過ごしやす季節が短くなってしまうのはやはり寂しいものです。そんな短い季節であれど春には桜が立派に咲き乱れ、秋には紅葉が山を彩り、季節の変化をしっかりと私たちに感じさせてくれます。

京都に住み始めた頃、新しい生活を満開の桜が迎えてくれたことを思い出しました。春は新しいスタートを後押ししてくれることでしょう。さあ、新年度の始まりです。